

Ctcdt letter

2019 Spring
vol.66

Clinical Trial Center for Developmental therapeutics

平成30年度 徳島大学病院 治験貢献賞授与式



後列左から明石治験推進部門長、小林看護師(内科外来)、荻野先生、楊河センター長、前列左から沖先生、桑原先生、永廣前病院長、安倍先生、細木先生

治験貢献賞 同意取得数上位 3名

2位



細木 眞紀 先生(歯科 かみあわせ補綴科)

この度は治験貢献賞を賜り、誠にありがとうございます。昨年度に引き続き、金属パネルパッチテストの治験を担当させていただきました。本治験も予定被験者数をほぼ達成することが出来、もうすぐ終了予定です。参加していただいた患者の皆様や臨床試験管理センターの皆様方、ご協力頂きました多くの皆様に心より御礼申し上げます。これからの治療につなげられるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

1位



安倍 吉郎 先生(形成外科・美容外科)

この度は治験貢献賞をいただき、大変ありがとうございます。医局員の先生方、CRCの皆様感謝申し上げます。私は原発性リンパ浮腫に対する遺伝子導入治療の治験を担当いたしました。本疾患は希少疾患でその病態は未だ不明な点が多く、効果的な治療がないのが現状です。進行例ではQOLの著しい低下をきたすことから新しい治療に対する期待は大きいものがあり、本治験でも遠く北海道から来られる患者さんもおられます。今後も医学の発展により一層貢献できるように努力したいと思います。

2位



沖 良祐 先生(神経内科)

この度は治験貢献賞を賜り、誠に光栄に存じます。2017年11月より難病のALS(筋萎縮性側索硬化症)に対して、高用量メコバラミン筋注(ビタミンB12)の有効性・安全性の検証を目的として全国25施設で医師主導治験を実施しています。目標128例に対して2019年1月までに71例が登録され、当院は主管施設として最多の12例を登録しています。日頃の患者様、関係スタッフの皆様のご協力に心より感謝いたします。



治験責任医師・分担医師の先生方には昨年度も治験の推進にご尽力頂きましてありがとうございました。平成30年度の治験実施に貢献していただいた先生方に永廣前病院長から表彰状が贈呈されました。

治験貢献賞同意取得数殿堂入り

治験貢献賞同意取得数1・2・3位に過去通算5回の受賞をされ、今回殿堂入りとなりました



周産母子センター
桑原 章 先生



不妊治療・体外受精を専門にしています。
ついに治験殿堂入りとなりました。ご協力いただいた患者さん、スタッフの医師・看護師・胚培養士、そしてCRCの方々のご協力に改めて感謝申し上げます。治験を担当できる立場に身をおけることを光栄に、幸せに思います。これからも、質の高い医療を実践できるよう、日々、精進したいと思います。次世代を担う若い医師、スタッフの皆さんの成長にも期待しています。



担当CRCからひとこと

同意取得数だけでなく、治験を実施される先生の姿は責任医師の鑑です！桑原先生が同意取得数で治験貢献賞にノミネートされなくなり寂しい気持ちもありますが、これからもセンター共々どうぞよろしくお願いいたします。



二見CRC

特別賞

呼吸器・膠原病内科 荻野 広和 先生

荻野先生

この度は治験貢献賞特別賞に選んで頂きありがとうございます。近年肺癌診療は、話題の免疫チェックポイント阻害薬を含めた多くの新薬が、治験結果に基づき承認を受け、日常臨床に應用されています。本年度私は病棟医長として、また肺癌化学療法外来を担当することで、数多くの肺癌治験に携わり、新薬が患者さんに届くまでの過程を学ぶ機会を得ました。この経験をもとに今後もより良い治療を患者さんに届けることを目標に頑張りたいと思います。最後に共に仕事をしたスタッフ、治験に御参加頂いた患者さん・ご家族の方々に心より御礼申し上げます。

CRCより

複数あるがん治験の基準を把握し、多くの被験者さんの治験エントリーに貢献されました。がん治験においては平成30年度同意取得数で第1位です。また、診療科内での治験に関する情報周知も積極的に実施いただきました。被験者さんに丁寧に接する姿勢と、プロトコルを把握して治験に臨む姿勢は研究者としてあるべき姿であると感じています。



伊勢CRC、荻野先生

内科外来

内科外来 大坂看護師長

特別賞ありがとうございます。今回の治験では、DVD作成の際から関わらせていただき、看護師と患者さん両方の立場で意見を述べて頂きました。

また、自己注射の指導の際は、患者さんやご家族のペースに合わせて行う心がけました。

私たち内科外来看護師は、患者さんにより近い存在として、常に患者さんやご家族の気持ちに寄り添うことを大切にしています。これからも治験が円滑に進められるよう、スタッフ全員で協力させて頂きたいと考えています。

CRCより

神経内科で実施中の医師主導治験において、内科外来看護師全員が治験協力者となり、盲検性維持のために、定められた手順を遵守し治験薬を投与いただいております。また、継続投与移行時には被験者およびご家族に対する自己注射の指導について協力体制を築き、8例の指導を実施いただいております。多忙な部署にも関わらず、臨機応変に、かつ柔らかな物腰で被験者に対応される姿を見て、自分もこうありたいと改めて感じました。



内科外来看護師の皆さん、沖先生とCRC

平成 30 年度治験貢献賞番外編

永廣前病院長に明石治験推進部門長から感謝状とお花を贈呈しました！

近年、臨床研究・治験を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。平成30年4月には臨床研究法が施行され臨床研究の一部も法の下に実施されることとなりました。永廣前病院長は、平成30年度の病院の品質目標に「信頼される臨床研究の整備」を挙げられ、院内の臨床研究に対する体制整備にご尽力されました。また、当院にて毎月開催されている臨床研究・治験対策会議においても、研究者や支援する者の立場を考えた忌憚ないご意見をいただきました。以上のことから、平成30年度の治験貢献賞特別賞を検討する過程で、永廣先生こそ、治験貢献賞にふさわしいのではないかとこの声があがり当センター明石治験推進部門長から、感謝状とお花をお贈りさせていただきました。

引き続き、徳島大学病院において臨床研究・治験が円滑に進む体制づくりを目指したいと考えています。



🌸 永廣先生 ありがとうございました!! 🌸

■ 新電子カルテシステム移行に伴うテンプレート運用について ■

治験推進部門長 明石 晃代

2019年1月より、徳島大学病院では病院情報システムが更新され、様々な機能が追加されました。そのひとつに、「ダイナミックテンプレート」システムがあります。テンプレートを使用して電子カルテに入力すると、テンプレートのみ時系列で抽出でき、効率よくデータ確認することができます。そこで、臨床研究や治験において一般的に記載すべき内容をテンプレート化しました。**有害事象**、**併用薬**、**治療効果判定**の3種類です。

有害事象は有害事象共通用語規準(略称:CTCAE) ver.4.0 あるいは5.0のいずれで評価したのかを選択でき、プロトコル毎に規定された重症度分類にも対応した入力フォームにしました。英語を並記しており、国際共同試験にも対応しています。

併用薬のテンプレートは如何に簡便な記載形式にするかを検討した様式としました。

治療効果判定のテンプレートは固形がんの治療効果判定のための新ガイドライン(RECISTガイドライン)にそって効果判定が行えるようなテンプレートにしました。

CRCが治験の支援経験から作成した力作です。治験のみならず、臨床研究の記録にもぜひ活用してもらいたいと考えています。



■ 治験における電磁的記録の保管について ■

治験等事務局 前田 和輝・鍛 美智子

治験事務局及び治験審査委員会事務局(以下、事務局)は、治験実施件数の増加や煩雑化が進んでいるにもかかわらず、臨床研究・治験を支援する部署の中でも特に人員の増員等は後回しになりがちであり、限られたリソースの中で業務を管理しなければなりません。その手段の一つとして、かつてより進めてきた治験依頼者等と実施医療機関で授受される文書(以下、治験関連文書)を電磁的記録として保管する運用を2018年9月より開始しました。これまで、治験関連文書の授受・保管を紙運用(押印有り)で行い、治験審査委員会では、紙審査をしていた当院にとっては、これら全てが電子媒体になることは業務効率化だけでなく、コスト面でも劇的に改善されました。

業務改善した点

- 押印取得の必要が無くなった。
- 治験関連文書の郵送が不要となった。
- 事務局の文書保管棚が減った。
- 必須文書閲覧の対応時間が減った。
- IRB資料作成・配布の手間が減った。
- IRB資料印刷・資料組みが無くなった。

コスト面で改善した点

- IRB資料印刷・廃棄が必要なくなった。
- 治験関連文書の郵送費用が減った。
- 文書保管スペースが減り、施設面のコストが減った。



徳島大学病院フォーラム 2019 報告

治験推進部門 松下 明子



ちけん君
(JMACCTキャラクター)



2019年3月3日(日)大塚講堂で行われた市民公開講座 徳島大学病院フォーラム2019に、臨床試験管理センター治験推進部門としてブース出展をしました。本フォーラムへブース出展を始めて今年で3回目となります。毎年、来場者の方々に興味を持ってもらえるのはどんなことか?馴染みのない臨床研究・治験をどのような説明であれば理解できるのか?など幾度もミーティングを行いました。

そして、今年は、日本医師会治験促進センターのキャッチフレーズを引用し“**治験は未来への贈り物-徳島大学病院編-**”として、当院で治験を実施をしている診療科の中、6診療科の先生の声をもとにパンフレットを作成し配布しました。

加えて製薬協作成のDVD(くすりの恩恵・基礎研究から非臨床試験・臨床試験)を放映しました。映像には、京都大学iPS細胞研究所の山中先生も登場し創薬についてお話しされており、来場者の方に興味をもってもらえるようなものになったと思います。

治験は未来への贈り物であり、患者さんの未来を繋ぐものです。治験が正しく認識され、正しく行われるよう、また被験者の立場になった際には、被験者として正しい知識を持って治験に参加できるよう、啓発を通して治験を多くの方に知ってもらいたいと強く思います。



第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会開催のご案内

センター長 楊河 宏章

第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会を2019年7月6日(土)に、「種を育てる」をテーマにして、徳島大学蔵本キャンパスの大塚講堂を会場に開催することとなりました。

今回の特別講演は、難治性神経疾患の治療法確立に一貫して取り組まれている梶 龍児先生の「ALSの治療薬医師主導(死亡)治験」です。

シンポジウムの第1テーマは研究自身の適正性を再考する意味で「適正な臨床研究推進のために」、第2テーマは研究には体制整備が不可欠であることから「種を育てるための体制」を設定しました。シーズから実用化までの流れを再認識し、今後われわれが進むべき方向性を考える場となれば幸いです。

さらに今回は、2つのシンポジウムの間に公募演題のポスターセッションを設定しました。「種を育てる」にはそれぞれのステップに関与するみなさまの現実的な取り組みが不可欠です。

第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会 プログラム



2019年7月6日(土) 13:00-17:30
徳島市(徳島大学蔵本キャンパス大塚講堂)
会費 3000円(学生無料)

13:00	開会挨拶
13:05-14:00	特別講演 「ALSの治療薬医師主導(死亡)治験」 梶 龍児 (国立病院機構宇野病院院長、徳島大学特命教授)
14:00-14:10	休憩
14:10-15:10	シンポジウム1 「適正な臨床研究推進のために」 (3題を予定)
15:10-15:40	休憩、一般演題ポスター発表
15:40-17:10	シンポジウム2 「種を育てるための体制」 (5題を予定)
17:10	優秀演題賞発表 表彰式 開会挨拶 次期会長挨拶
17:30	終了

第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会 一般演題募集要項

今回の中国・四国地方会におきまして、一般演題を募集します。
今回のテーマは「種を育てる」であり、特に医薬品の実用化、臨床研究を支えるCRCや支援・管理担当の方々の現実的な取り組みに関する演題を歓迎します。もちろん臨床薬理学の範疇のあらゆる内容に関する演題のご応募をお待ちしています。
発表形式はポスターのみで、当日15:10-15:40が一般演題ポスター発表となっています。
なお、本地方会への参加、発表により、取得できる単位は以下の通りです。
専門医・認定薬剤師更新者：参加10点、発表者5点、共同発表者2点
認定CRC受検者・更新者：参加10点、発表者5点、共同発表者2点

1. 演題応募方法

1) 発表者について

発表は日本臨床薬理学会会員に限りません。ただし共同演者には1名以上の会員を含め、後述の抄録記載の発表者氏名にアンダーラインをお願いします。含まれていない場合は不採用とさせていただきます。また、この機会に日本臨床薬理学会への入会をご検討いただければ幸いです。入会手続きは、<https://www.jscpt.jp/nyukai/index.html> をご覧ください。

2) 抄録作成について

抄録は、演題、発表者氏名、発表者所属、本文の順にワードファイルで作成して下さい。
抄録本文は600字以内とし、原則【目的】【方法】【結果】【結論】の順に記載して下さい。なお、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等を参照頂き、適用範囲に当たる演題に関しては倫理審査委員会の審査承認を得ている旨の記載など、適切な対応をお願いします。
初回受領以降、変更や修正は一切出来ません。頂いた原稿をコピー&ペーストにより抄録集に移行しますのでご了承下さい。抄録見本を中国・四国支部サイトの地方会の部分に掲載しています。

3) 演題応募について

ワードファイルで作成頂いた抄録を添付し、事務局までメールにて送信してください。
締め切りは2019年5月31日金曜日17:00必着です。
送信先 第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会事務局 first-ec@tokushima-u.ac.jp
(件名は、第4回日本臨床薬理学会中国・四国地方会演題申し込み、をお願いします)
メール受領時に、受領の旨の返信を、採用決定時にその旨の送信を致します。採用決定の送信は応募締め切り以降、7-10日程度を予定しています。連絡がない場合はお知らせ下さい。
恐縮ですが、演題の採否に関しましては会長に御一任下さい。

2. 優秀演題賞

今回試行的に、一般演題ポスター発表に関して優秀演題賞を設定しました。
当日ポスター掲示が行われた演題を対象に、参加した中国・四国支部世話人の投票で選考を行い、17:20より発表と受賞者への授与式を行います。
選考結果は中国・四国地方支部事務局へ報告し、世話人会への情報提供や中国・四国地方支部のサイトへの受賞者掲載を実施する予定です。
演題応募の際、優秀演題賞へのエントリーを希望されない方はお知らせ下さい。
なお、極端に応募演題が少なく優秀演題賞の設定自体が不適切と考えられる場合は中止する場合がありますのでご容赦ください。

今回は試みとして、「優秀演題賞」を設定します。全体を俯瞰するような演題はもちろん歓迎ですが、日常の業務に直結するような演題を含めてふってご応募くださいますようお願い致します。

演題募集要項や詳細は、日本臨床薬理学会中国・四国地方支部のホームページ<http://jscpt-cs.jp/>に掲載頂きますのでご確認ください。



■ クリニカルリサーチマネージャー規則が制定されました ■

前・臨床研究推進部門長 軒原 浩

2019年度から各診療科にクリニカルリサーチマネージャーが設置されました。クリニカルリサーチマネージャーを設置することにより診療科において、より質の高い研究を実施するとともに信頼性を確保することを目的としています。また、臨床研究・治験に関する診療科の窓口を一本化し、情報共有体制の強化を図ることや各診療科内に臨床研究・治験に精通した人材を増やすことも目指しています。



クリニカルリサーチマネージャーの役割とし

て、①各診療科における臨床研究・治験全体を把握する、②各診療科における研究申請の指導及び研究実施の管理を行う、③臨床試験管理センターのカウンターパートとなる、等があります。他のいくつかの国立大学病院でも同様な役職がすでに設置され、運用されています。クリニカルリサーチマネージャーの役職を担っていただく先生には業務負担が増えますが、診療科の臨床研究・治験における信頼性を確保し、より質の高い研究実施のためにご尽力していただきたいと考えています。診療科長におかれましてはクリニカルリサーチマネージャーの業務をご理解、ご評価いただき、クリニカルリサーチマネージャーに対して研究におけるauthorship等を是非、ご検討いただければと思います。徳島大学病院の臨床研究・治験推進にご協力のほど、よろしくお願いいたします。

■ 日本臨床試験学会 第10回学術集会総会発表報告 ■

臨床研究推進部門 加根 千賀子

2019年1月25日-26日に東京・有明で開催された日本臨床試験学会において「研究倫理委員会委員の就任要請を受けたと仮定した状況における非専門家の意識」というテーマで発表を行いました。本研究は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の「中央治験審査委員会・中央倫理審査委員会基盤整備事業」の支援により実施しました。また、本発表をもとにまとめた内容は、Journal of International Medical Research『[Perspectives of non-specialists on the potential to serve as ethics committee members](#)』で採択されました。



本研究結果では、非専門家は、研究の成功または失敗に直接の関係を持たない個人として自分自身を捉えていて、委員会委員としての役割を追求するためには、個別の研究事例についてより深く説明するような機会を設けることが重要であると考えられました。

学会参加を通し、臨床研究の支援に関する検討は共通の課題ではありますが、各施設の小さな取組の積み重ねが被験者を保護し、臨床研究の質を高めるのだと改めて感じております。

第14回先進医療推進セミナー開催報告

(平成31年3月28日開催)

臨床研究推進部門 加根 千賀子

徳島大学病院では、現在、先進医療B3件を実施しています。高度先端医療の開発と推進は、品質方針の一つであり、その重要性の理解を深める目的で先進医療推進セミナーを毎年開催しています。2017年4月に臨床研究法が公布され、臨床研究に対する信頼性の確保と対象者の保護の観点から、法のもと特定臨床研究でモニタリングが求められるようになりました。

そのため、今年度は、医事課医事係、折野寛子係長より申請方法などを説明いただいた後、私からは、臨床研究の信頼性確保について、モニタリングにおける研究責任者とモニターの責務を中心に説明を行いました。また、新しい試みとして、徳島大学研究支援・産官学連携センター、矢野慎一主席研究員から特許相談・発明相談や知的財産権の確保など具体的な事例を用いて高度先端医療のシーズについてご講演をいただきました。

これからも、先進医療の推進のみならず、臨床研究全体の質の向上を目指し、新しい企画を取り入れながら研究支援を行っていききたいと思います。



折野係長



加根看護師長



矢野主席研究員

発明・特許相談について

このような時

- ・まだ研究前のアイデアの段階ですが・・・
- ・特許になるかわからないのですが・・・
- ・発明が完成する前なのですが・・・
- ・すでに論文・学会等で発表した発明も特許出願できますか？
- ・企業から「ライセンスを受けたら研究成果に利益がある」と言われましたが・・・
- ・企業への研究資料（マテリアル）の提供について・・・
- ・企業からコンサルティングの依頼を受けていますが・・・

お気軽に！
研究支援・産官学連携センターまでご連絡ください！

お問い合わせ先
〒770-8585 徳島県徳島市東区三好2-2-1 (内線: 82-4951)
徳島分室: 089-633-2142 (内線: 83-2107)
Email: fac-info@tokushima-u.ac.jp

医師主導治験の最終年度に向けて

神経内科 沖 良祐



JETALSは難病の筋萎縮性側索硬化症(ALS)に対して活性型ビタミンB12である高用量E0302(メコバラミン)の有効性の検証を目的とし、徳島大学病院が初めて主管施設として実施している医師主導治験です。現在複数のALS治験が実施されていますが、第Ⅲ相治験は本治験のみです。全国25の参加施設、目標症例数128例はいずれも医師主導治験としては大規模となりますが、神経内科、臨床試験管理センターを中心に、看護部、薬剤部、臨床検査部、患者支援センターなど病院全体としてバックアップを頂き、治験運営にあたっております。

2017年11月に症例登録を開始して以来、2019年3月までに85例が登録され、現時点では目標通りのペースで登録が進んでいます。ひとえに皆様のご協力のおかげと感謝しております。2019年9月の登録締め切りまであと半年を切りましたが、引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い致します。

日本薬学会 中国四国支部 奨励賞 受賞 しました!!

臨床研究推進部門 武智 研志



第57回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会(鳥取)にて、「実験てんかんモデルマウスを用いた情動機能変化および治療薬の探索」というテーマで発表しました。本テーマは基礎研究ですが、発想は、臨床現場にて未だ治療に難渋する患者さんがいることを経験し、今後の薬物療法の発展につながればという思いではじめました。この度は、若手奨励賞をいただき、受賞にあたりこれまでの多くの皆様の協力に大変感謝しております。また現在、臨床研究を行う医師をはじめとした研究者をサポートする立場ですが、臨床研究は、様々な要因や倫理的な配慮がある上で研究を組み立てる必要があります。比較的そういった条件が少なく、目的達成のために直球で研究を計画する基礎研究の経験は、悩める研究者をサポートする上でも非常に役立つと感じております。今後も、基礎・臨床両面の研究の素晴らしさを尊重しながら研究に携わっていければと思います。

異動スタッフのご挨拶



前・臨床研究推進部門長
軒原 浩

2017年1月に臨床試験管理センターに着任し、同年4月より臨床研究推進部門長として業務をさせていただきました。着任後、2017年2月に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が一部改正され、さらに2018年4月に新たに「臨床研究法」が施行されました。臨床研究を取り巻く環境が大きく変わった時期に部門長をさせていただき、私自身、多くの経験と勉強をさせていただきました。その間、臨床研究推進部門も人材が増え、倫理審査委員会の審査資料の事務点検を中心とした業務から、少しずつではありますが研究計画段階からの相談対応も実施するようになりました。研究立案の支援業務も行うようになり、支援の幅も広がっています。臨床研究推進部門は研究者の業務を支援するだけでなく、研究者とともに考え、知恵を出し、時には研究者の背中を押す部門であるべきと思っています。今後さらに臨床研究推進部門の人員が増え、体制が整備され、様々な支援業務を行えるようになることで、より一層研究者に頼りにされる組織になることを願っています。

4月1日からは徳島大学大学院医歯薬学研究部の呼吸器・膠原病内科学分野で勤務しています。支援する立場から支援される立場に変わりますが、一人の研究者として未来の患者さんのために徳島大学病院の臨床研究を推進していきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



新・臨床研究推進部門長
坂口 暁

徳島大学から2017年4月より医薬品医療機器総合機構(PMDA)へ出向していましたが、2年間の業務を終え、帰徳いたしました。4月1日付で臨床試験管理センターに就業し、前任の軒原先生のあとを引き継ぐこととなり、身の引き締まる思いです。

PMDAでの業務は、これまでのベッドサイドでの仕事とは異なり、主に新薬の審査及び治験に対する助言を行っておりました。そこでは、患者様を直接診ることはありませんが、適切な医療を患者様にいち早く提供したいという、私たちと同じ医療者の信念が確かにありました。徳島においても、多くの医療者が同じ信念のもと、日夜研究に取り組んでおられます。これまでの経験を活かし、徳島大学で行われる研究の成果を患者様に届けることができるよう、その一助となれるべく尽力したいと思う所存です。

とはいえ、まだまだ困難な道が待ち構えていると思いますが、『ピンチをチャンスに』の言葉を胸に頑張っていきたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。



3月17日 徳島マラソンに参加しました

治験推進部門 前田 和輝



昨年に引き続き臨床試験管理センターのマラソンチームがとくしまマラソン2019に参加しました。本年は、それぞれが目標タイムを決め、全力のバトルとなりました。しかし、当日は生憎の悪天候で、土砂降りの雨やあられが心身を蝕み、全員目標達成できないという悲惨な結末となりました。そんな中、軒原隊長だけは目標タイムには数十秒足りなかったものの前年を上回る好タイムでゴールしました。そんな軒原隊長も2019年4月から別部署へ異動となり寂しい限りです。もちろんマラソンチームは永久に不滅ですので、来年こそミニコラムでいい報告ができればと思っています。



編集担当者 より

C.Kane
N.Ise
M.Kitai
K.Tamaru
Y.Sato

☆編集者より

新元号が発表されました。

当センターでは、厚生労働省「令」である臨床研究法施行規則やGCPを遵守し、臨床試験に関わる研究者、職員、被験者さんの負担を「和」らげることで医学の発展に貢献できるよう、より一層邁進します。



CTCDT Letter 第66号 April.26.2019

編集・発行 徳島大学病院臨床試験管理センター
〒770-8503 徳島市蔵本町2丁目50-1

TEL/FAX : 088-633-9294/088-633-9295 Mail : awachiken@tokushima-u.ac.jp
臨床試験管理センターホームページ : <http://plaza.umin.ac.jp/~chiken/>
徳島治験ネットワークホームページ : <http://plaza.umin.ac.jp/~tnct/>